米澤弘安日記

上巻

シンポジウム

金沢職人の日記から読む近代地方都市 --生活史研究と日記分析

日時: 2009年9月7日(月)午前10時~午後4時30分

場所:大阪市立大学 高原記念館ホール

午前 10:00~12:00 日記分析の方法 --生活世界と歴史解読

<日記に記述される生活史の特徴と生活世界の分析方法> 近藤敏夫(佛教大学准教授)

<日記分析の方法と歴史解読 > 青木秀男(社会理論・動態研究所所長)

コメンテーター: 谷 富夫 (大阪市立大学大学院教授) 司会: 大谷栄一(佛教大学准教授)

午後 13:30~16:30 近代金沢の職人世界 --生活倫理の構造

< 職人労働のエートスの構造 > 青木秀男(社会理論・動態研究所所長)

< 職人の家父長制のかたち> 水越紀子(社会理論・動態研究所研究員)

< 職人の生活世界にみる金沢の人間関係 > 近藤敏夫(佛教大学准教授)

< 近代を生きた金沢職人の帝国意識 > 坪田典子(文教大学非常勤講師)

コメンテーター: 西村雄郎(広島大学大学院准教授) 能川泰治(金沢大学准教授) 司会: 土屋礼子(大阪市立大学大学院教授)

大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター主催

シンポジウム趣旨

明治期以降、地方都市金沢の近代化は多様な側面をもって展開してきた。 金沢に生きた一庶民の日記から近代化の過程を歴史社会学的に問い直す。 生活史研究の方法を媒介として、社会学と歴史学との接点を見い出す。

午前の部

日記がもつ資料としての意義を提起するとともに、日記分析の方法を開拓する。 個人の日記から、書き手と日記が埋め込まれ、かつ書き手が生きた歴史が、 どのように解読されるのか。どのような分析手続きが必要なのか。 個人の生活史に注目する質的研究を通して < 個人と歴史 > の関係を問い直す。

午後の部

金沢では大正期以降の近代化の過程で、多くの伝統職人が没落した。 しかし、少数の伝統職人は近代化に適応し、生活を再構築していった。 彼らにそれができたのは、どのような条件があったからなのか。 職人の世界からみた近代化の過程を描き、近代地方都市の視点から検討する。

『米澤弘安日記』

米澤弘安(1887年~1972年)は明治期から昭和期にかけて金沢で活躍した象嵌職人日記は大正期を中心に 400 字詰原稿用紙換算で 4515 枚書かれた。シンポジウム報告者の青木、水越、坪田が中心となって日記を復元し、金沢市教育委員会から上・中・下・別巻の 4 冊で刊行された(2000 年から 2003 年)。

《会場案内》

大阪市立大学 杉本町キャンパス 高原記念館 JR天王寺駅より阪和線 和歌山駅行き 各駅停車乗車 杉本町駅下車 徒歩5分(踏切を渡って正門からお入りください)

